

高退協ニュース

高知高退協事務局
2006.1.1
No138

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内2丁目11-10
TEL 0888-1822-16822
教育会館内高教組気付
01665012111893
郵便振替口座 780-0850

正賀

今年も元気で!!



2006年戌年.



新年を迎え、充実した日々を!

和田 明

2006年も、お体に留意しお過ごし下さい。

2005年は、憲法・教育基本法の改悪を許さず!と全国に3000以上の「九条の会」が結成され、県下にも広がりをみせ、運動と学習が展開されました。その運動に高退協の皆さんも積極的に参画し、小学区に「九条の会」を!とひろがりを見せています。昨年11月に開かれた、全退協四国ブロック集会でも「九条」が中心課題となりました。

山原資料室も、みなさまのご協力により、いよいよ着工の運びとなりました。

山原事務所跡地は、反戦・平和の砦として、高知の拠点として新たな運動を発信します。

高退協もがんばっていきます。“こうたいきょう”26号が出来上がり、本日も届けられました。この号で、「戦後60年8・15と私」の特集をくみました。それぞれに50年・・・を再読して26号に目を通していただければ幸いです。

今年も、総会・学習会・秋の旅行・クラブ活動等々でお会いできます様、事務局今年もがんばります。ご協力下さい。



活動日誌

【12月】

12月 7日 望年・芸能祭

11日 12・8平和の集い

13日 幡多望年会

22日 新年号ニュース

発送事務

こうたいきょう26号

こうたいきょう26号は、

従来通り、600部印刷しました。会員に配った残り約150部を1部500円で販売します。2冊目が必要な方、又、販売にご協力下さる方は、事務局に連絡下さい。

高退協活動日誌

【1月】

初歩き・新年会

山原資料館総会

【2月】

2・11集会

国民救援会総会

【3月】

卒業式ビラ配り

こうち9条の会

【4月】

山の会総会

退職者を励ます会

【5月】

第76回メーデー

医療・年金講座

【6月】

原水爆禁止集会

事務局会

【7月】

高知県母親大会

革新懇総会

【8月】

8・15のつどい

夏季学習講座

【9月】

9・11平和の日

四プロ代表者会

【10月】

昼食会

「高知・20世紀の戦争と平和」出版記念会

【11月】

「こうたいきょう」編集会

親睦旅行(和歌山)

【12月】

望年・芸能・作品展

幡多望年会

(高退協ニュースに掲載したなかで、

月2回の行事に絞り転載しました)

老声筆

年の瀬も迫ると、何かと気分的に気忙しい。私たちの生活を圧迫しようとするイヤことが、目につく。

定率減税を07年に

は全廃すると政府税調が答申。

「景気が回復した」からだとい

う。「回復」の実感私たちに

は全然ない。全く道理に反する。

他方、大企業では史上空前の

増益で、たとえばトヨタは1兆

2千億円もの最終利益が予想さ

れ、3年連続の1兆円超の利益

を得る。法人税率引き下げ等の

優遇税制はそのまま継続する

という。大企業にも応分の負担を

求めるべきではないか。

公務員総人件費改革の具体化

が明らかになった。国家公務員

地方公務員を削減するという。

日本の公務員数は、イギリスの

半分、フランスの3分1で、諸

外国に比べれば決して多くはな

い。特に教育、福祉、消防等の

削減を狙っている。住民生活に

直結する公共サービスが切り捨

てられ、国民に重い負担がのし

かかってくることになる。

また、政府系金融機関の統廃

合・民営化をするという。日本

経済の主役である中小企業向け

融資が縮小され、大打撃を受け

る。この「官から民へ」の問題

で表面化してきたのが、マンシ

ヨンなどの耐震強度偽造問題で

ある。複雑な問題を含んでいる

が、営利主義・民営化の弊害は

明らかにたつてきている。

しかし、このような状況の中

で、驚きとともに大感動を与え

てくれたのが、東京国際女子マ

ラソンでの高橋尚子選手の復活

優勝。レース後に「暗闇にいる

人や苦勞している人に、『夢を

持てば必ず光が見えるんだ』と

伝えたいと、走りながら自分に

言い聞かせていました」と。力

と希望を与えてくれるメッセー

ジである。

新しく06年を迎えるにあたつ

て、明るい希望に 満ちた国民

本位の政治を目指してともに前

進していこうと思う。(中川)



第十九回日本高齢者大会(神戸)

第十九回日本高齢者大会が十一月十五日・十六日の二日間神戸のワールド記念ホールで、日本全国から三九六人が参加して、行われました。

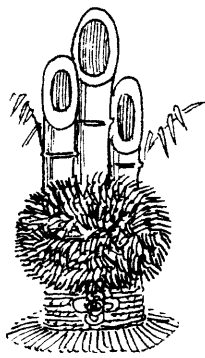
森信幸中央実行委員会委員長が「いま高齢者の出番のとき、大会での出会いを地域の広げ、新たな高齢者運動を進展させていこう」と主催者挨拶、来賓挨拶とメッセージの紹介され、白井篤子兵庫事務局長が基調報告大会開会へ各地の高齢者が介護保険制度改悪反対や憲法を守り運動に旺盛にとりくんできたことをのべ、「新しい情勢を切り開くため、誰もが団結できる課題を軸に、運動の輪を大きくしましょう」とよびかけました。

阪神・淡路大震災被害者ネットの安田秋成代表が、震災十年のいまも復興住宅での高齢者の孤独死が相次いでいると報告。「復興住宅での問題は人災だ」と団や自治体の責任を指摘し、「被災者の願いは震災前の生活に返ること。人として生きていくために、運動を続け、たまたかていく」と発言。原水爆禁止兵庫県協議会の梶本修史事務局長は、三十年を迎えた非核「神戸方式」を紹介。「核艦船の入港を一切拒否する神戸方式の平和運動を全国に広げよう」とよびかけました。

灘の酒造り唄、ジャズ演奏に会場がひとつとなって手拍子や合唱が見られ大いに盛り上がりました。記念講演は作家の藤本義一さん、「日本人は何も考えない、自分の頭を働かせて生き方を考えるべきです。右脳(思考)、左脳(表現)をうまく使い他人に迷惑をかけない生き方を！」

大阪弁のユーモアたっぷりの話に会場は大爆笑。アピールと五つの特別決議を採択して一日目は終了しました。(有馬温泉泊) 二日目の十六日は、神戸市内で、三二の学習講座や分科会が行われました。私は、移動分科会(平和のための神戸みなとめぐり)に参加。世界が注目する

非核の港、大型公共事業・軍港―みなと神戸の「光と影」をこの目で確かめることができました。一九六八年四月、大学(関西学院大学神学部)受験準備で初めて訪れた街 神戸。あれから四十余年。港から眺望する、神戸市街、六甲山麓。感無量也。(報告者 小澤幸泉)



熊楠は変人か

今年の親睦旅行は白浜温泉へ行つた。男一〇人女十四人参加した。最高年齢は池上先生の九〇歳である。「先生は記憶力も良い、補聴器も付けず耳も良く聞こえますね」と聞かけると「いや、聞こえんぞね」とのことでした。夕食後、今回も新しい手品をしてくださいました。私はネタを探して近くで見ましたが、先生の動作が敏捷で見つけることができなかった。幅多から秋田さんが一緒に行き懇親会のカラオケで美声を聞かせてくださった。渡辺允史氏は植物に造詣が深く「はかま葛は葉っぱが袴の形をしている」と説明してくださった。なるほど昔の裾を絞った袴に似ている。もつと草木の分類や生態を聞きたかった。

私たちの泊まった温泉宿から二キロメートル程行った岬の上に南方熊楠記念館がある。熊楠は幕末に和歌山城下の金物商の次男に生まれ、日本が真珠湾を攻撃した十二月に七九歳で亡くなっている。熊楠は奇人変人巨星などと評される。いごっそうとはちきんが束になってもかなわない。一〇歳のころ近所にある百科事典に相当する「和漢三才図」を暗記し家に帰って筆写した。数学が苦手な学校を欠席し、野山へ出て動植物岩石など自然を観察して図書館で調べた。学校嫌いの勉強好きである。米英に十数年滞在し、天文や植物に関する論文を英文で発表した。外国語も一〇数ヶ国語を駆使したと言ふ。ロンドンでは家賃の安い馬小屋の二階に住んでいた。ぼろ靴を財布代わりにした。金があればぼろ靴金庫から金をわしづかみにしてパブで酒を飲んだ。酒好きなら土佐人も太刀打ちできる。パスガイドの沖野さんは何十回も白浜へ案内するが、南方熊楠記念館へ行くのは初めてである。そんなところへ行く我々が変人である。三谷隆彦

南仏の旅

関西空港―パリ―ニース―モナコ―カンヌ―マルセイユ―エクス・アン・プロバンス―アヴィニヨン(教皇宮殿)―アルル―カルカソンヌ(古城)―ツールーズ(T・G・V新幹線)―パリ―関東と巡る10日間の旅でした。一、ドーデー(一八四〇〜九七)の風車小屋

名作「風車小屋だより」の風車が、アルルの郊外に昔のまま立っています。一度訪ねてみたいと長年念じてきましたが、終りに願いを果しました。感動一杯でした。

アルルにはローマ時代の円形闘技場や野外劇場が、ほとんどそのまま遺されています。闘技場では「アルルの女」のことを思いました。

二、ゴッホ アルルといえはゴッホです。彼が描いた「はね橋」や「夜のカフェテラス」を見、そのカフェで食事し、入院した病院も訪ねました。

ゴッホがアルルにいたのは、わずか15ヶ月だったのですが、その間なんと200枚も描いて、駄作がほとんど無いといえますから驚きです。

日本の浮世絵に出会って魅せられ、「アルルにこそ夢に見る日本がある」と感じて、遙々パリからやってきたそうです。が、フランスは北海道と同じ緯度。わが南国土佐がずっと光に満ち、マルセイユで名物料理ブイヤベールなるものを食べましたが、わがカツオのタタキがずっと旨い。

三、セザンヌ

彼の故郷はエクス・アン・プロバンスです。アトリエが生前のままに遺されています。郊外に有名なサント・ヴィクトワール山が聳えています。彼はこの山を60枚も描いています。セザンヌは「近代絵画の父」といわれますが、なぜそうなのか、矢野川さん、町田さん、飲んだ時教えてください。(浜田)

訃報

小路勝三郎さんが11月23日に逝去されました。慎んでお悔やみ申し上げます。

短歌

新日記開く

榎原忠彦

あらたしき年のはじめに起筆せむと万年筆にインク満たしぬ病みつつも新しき書物多く得つ来む年も生きさらし読むべし
入退院の記事多かりし去年の日記今年消えよ新当用日記開く
歩み出す
叶岡淑子

忘年会へ初歩き会へと誘いくるる仲間のありてありがたきかな硝煙におう年の瀬 街の灯は何か小暗し かの日のごとく
静かなる意思たしかめて歩み出す
視界不良の年の初めを
命ありてこそ
山本晶子

この春も命ありてこそ吾が庭に咲く水仙の花々を見つ
百年後の日本知らねと連綿とつづく命に託する希望
国益と云う時代にあらざるこの星に暮らす人等になべて幸あれ

俳句

新年句

合田青幹

ためらはず三年連続日記買ふ
田所たねを

九条の明りを消すな初日の出
吉本伸秋

そそくさと手水舎を翔つ初雀
中内英明

初漁の雑魚は鴨にくれてやり
中内みち代

参道は海へと下る淑気かな
小笠原さちを

元旦の使者の如くに鶴来る
川柳 小澤 幸泉

邂逅集 ③
一 眩き証し・探す―

水割りの彩を薄めて夜が更ける貧乏という器用さを連れてくる淋しくて古い手紙を読み返す
退屈な顔がゆれてる遅いバス
冷房の音哀しがる通夜の席

